

学校教育目標

地域とつながり 豊かな心と言葉で 自ら学ぶ児童の育成

研究主題

自ら学びに向かう児童の育成

～見通しと振り返りによる学びの自己調整を通して～

【目指す児童像】

- ・目標に向かって、何度も粘り強く繰り返し取り組むことができる児童
- ・自ら進んで考えを伝えることができる児童
- ・異なる考えを参考にして、新たなことに挑戦することができる児童

【府南学園で育成したい資質・能力】

①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・解決能力

【主題設定の理由】

(1) 学習指導要領から

「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が求められている。

(2) 昨年度までの児童実態から

本校児童は、フレームリーディングを活用した読解を行ってきたことで、学習材を自分なりに読むことができる。今まで学習してきた読みのフレームをもとに、自分なりに課題を解決しようとしたり、友達と話し合いをしながら学習を進めようとしたりしている姿が見られる。

昨年度の本校児童の課題（教師の見取りによる）は、対話の内容が深められていないことが挙げられた。児童同士の対話の中で、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導する必要がある。

また、フレームがあることによって問いをもち深めることができたので、フレームを確実に積み重ねるために、教材や学年をつなぐ指導を継続していくことが必要だと考えられる。

【自ら学びに向かう児童を育成するには】

仮説：児童とともに単元のゴールを設定し、フレームや学習方法を意識した振り返りを行えば、目標に向かって、粘り強く取り組み、進んで考えを伝えることができる、自ら学びに向かう児童が育成できるだろう。

【研究方法】

- ・PDCA サイクルに基づき、授業実践と理論研修、模擬授業やワークショップ等を通して研究を行う。
理論研修の内容として、教材研究、対話について、指導案検討を取り入れる。
- ・提案授業は次の流れで行う。
P 指導案検討→D 授業参観→C 事後協議→A 課題を踏まえて次回の提案授業へ。

【取り組み】

- ① 単元の初めに児童の感想や問い等から単元のゴールを設定する。
- ② 獲得したフレームを掲示し、いつでも振り返られるようにする。
- ③ 単元の終末に、単元全体を振り返りの時間を設け、有効だったフレームや学習方法を明確にする。
- ④ 対話を行う際には、対話をする目的を明確にして行う。

【検証方法】

- ・以下の３点を基に、年間の研究結果の考察を行う。
 - ① フレームを活用する児童の姿の見取り
 - ・年間を通して、読みの学習の単元始めに児童から出てくるフレームの定着について、初発の感想を基に見取る。
 - ② 児童アンケート
 - ・i-check から抜粋した質問、本校の取り組みについての質問を４月と１２月（物語、説明文学習後）に実施する。
 - ③ 府中市一斉学習調査（１２月実施）
 - ・府中市一斉学習調査の「読むこと」の領域の数値について、目標値と校内平均値を比較する。

【研修計画】 ※詳しい日程については、別紙参照

1 学期	授業研	校内研修の内容 ・指導案検討、教材研究 ・対話について 等	
2 学期	夏季公開研修（７月３１日） ・模擬授業、講演 ※青木伸生先生 招聘		
	授業研		
3 学期	教育研究会（１月２３日） ・１～６年、特支から１学級ずつ授業公開→事後協議→示範授業・講演 ※青木伸生先生 招聘		